

なな山だより

なな山緑地の会会報 第22号 2011・5

第10期グリーンボランティア講座がなな山で開催されました

4月23日(土)第10期多摩グリーンボランティア講座がなな山緑地で開催されました。当日はあいにくの雨天となり、会場を百草団地集会所に移しての開催となりました。今回は参加人員が14名でした。

全員で柔軟体操を行ったのち、森木会川添会長の司会で、高木会長の挨拶となな山緑地のこれまでの経緯などの説明。住崎さんから、里山を多摩市に寄付した経緯、農家と里山の関係などのお話。続いて多摩市みどりと環境課、荒井課長から、多摩市の緑化政策の説明がありました。午前中の最後に、相田さんから、パワーポイントを使って、なな山緑地の会の活動状況などの説明があり、そのあと小雨の中を、植物などの観察、解説をしながら緑地内を回ることとなりました。観察は西の谷から西の山、東の山を回って、西の山に戻ってくるコースで行われ、講習生はとても喜んで皆、熱心に説明を聞き、質問をしたり、珍しい植物の写真を撮ったりしていました。

午後は川添会長のマント群落など雑木林の成り立ちについての講義、コミュニケーションワークショップ、パワーポイントを使って「里山の自然、昆虫、鳥、動物」の話があり、15時ごろ終了しました。



今回は、事前に丸太椅子など準備していたにもかかわらず、雨となってしまったので、なな山の素晴らしさを十分伝えられなかったのではと心配ですが、パワーポイントを使ってのなな山の紹介、「なな山の植物1」の配布、また、雨の中でしたが、約1時間かけて西の山、中の山を見てもらい、なな山の魅力をかなり理解してもらえたものと思っています。

<写真>上右=住崎さんのお話、下左=熱心に観察する講習生



多摩市立グリーンライフセンターが新体制に移行しました

4月29日(金・祝)、多摩市立グリーンライフセンターが、多摩市、恵泉女学園大学、多摩市グリーンボランティア連絡会の三者一体による体制に変わったのを期して、オープニングイベントが開催されました。

「多摩市グリーンボランティア連絡会」は、多摩市内のみどりのみずの保全等に関わるボランティア活動を行っている多くの団体で構成されており、なな山緑地の会もこれに参加しています。

オープニングセレモニーは、10時からグリーンライフセンターのホールで開催され、多摩市阿部市長、恵泉女学園大学木村学長、多摩市グリーンボランティア連絡会川添代表の挨拶に続いて、順天堂大学医学部教授・恵泉女学園理事 樋野興夫氏の「恵泉がん哲学外来 in 多摩メディカル・カフェ」と題した講演、また、恵泉女学園大学准教授 樋口幸男氏による「春まき一年草の種まきと育て方」の講習会があり、外庭では、記念品のポット植えドングリのプレゼントやオーガニックカフェなどが行われました。フィールドでは、柴田素子さんの案内・解説で植物観察会が開かれ、快晴の青空の下、多摩中央公園をグリーンライフセンターの付近からドングリ山公園まで新緑の木々に囲まれた道沿いに植物観察をしながら約2時間の行程で歩きました。新体制になった、グリーンライフセンターが多摩市のみどりのみずの保全・育成活動の中心拠点としてこれからも、発展していくよう当会としても協力していきたいと思っています。



<写真>右上=阿部市長の挨拶、左下=植物観察会

子供たちは大満足でした

多摩第二小学校おやじの会 佐藤幸一

2010年12月11日、なな山緑地の皆様のご協力により、多摩第二小学校の児童及び保護者、約80名が、ななやま緑地にて自然体験を行いました。当日は天候にも恵まれ、師走とは思われないほど暖かくなり絶好の外遊び日和でした。

子どもたちは、なな山に着くと早速山へ登ったり、木工遊びを始めたり大はしゃぎです。特に山の中には、多摩第二小学校のおやじの会の皆様や、なな山緑地の会の方々事前に準備していただいたターザンロープがあり、ターザンごっこ



が大人気でした。これは意外と高いところまで、ブーランブーランと宙に浮くにもかかわらず、子どもたちはみんな怖がらずに目を輝かせ、飛びまくっていました。この他、自然の落ち葉を利用して、ソリで斜面を滑って行って、落ち葉のプールに突っ込んでいくなどといった遊びも、子どもたち自身で発見して遊んで大いに喜び、楽しんでいたのが印象的でした。



また、お昼にはPTCAのお母さんたちによるアツアツのトン汁の提供や、おやじの会のご協力によるチキン香草焼きの提供もあり、自然のなかで遊びだけでなく食事也大満足な楽しいお弁当の時間を全員で過ごすことができました。本当に楽しいこと盛りだくさんで時間はあっという間に過ぎてしまい、気がつくともう帰る時間といった感じです。そして最後には、希望者全員で落ち葉の中に隠れているカブトムシの幼虫探しをして、見つけた幼虫をおみやげに持って帰るということもできて子どもたちは大満足でした。

<写真>右上=ターザンごっこ、左下=落葉すべり

広げよう会員の和

リレー随筆(22)

里山を楽しむ贅沢

名黒 二郎

第9期グリーンボランティア講座終了後に入会させていただきました。初めて講座で訪れたときから、なな山のフィールドは奥行きがあり広くて多様なので、その分里山の楽しみが沢山味わえるのではないかと考えていました。

ここでは、里山の景色を楽しめるだけでなく、草刈り、伐倒など維持管理していく取り組みに参加できるのは、とても「贅沢」な感じです。作業の道の補修、柵の補修、落葉囲いの補修など、どれも3年くらいで補修しなくてはなりませんが、木で作る、腐ったものは土に返っていき、また、木で作る。この循環するサイクルは緑地の風景の中に溶け込み心地よいものです。



昨年の多摩第二小のイベントでは子供たちがお父さん、お母さんと一緒に大勢なな山にやってきました。山を走り回ったり、ターザン遊びをしたり、工作をして楽しんだことや、お昼に食べたおいしいトン汁の味は、きっと子供たちの記憶に残っていくことでしょう。保護者の方もキャンプなどでは味わえない里山の自然に触れる機会を新鮮に感じたのではないかと思います。

今の季節は、木々の芽吹き、その上に広がる空の風景を楽しむ季節ですが、私は花粉症になって以来、花見もできない状態で、花粉の飛散が終わる時期まで不自由な生活を送らなければなりません。新緑の時期は樹木の生命力を実感する時ですが、十分に楽しめないのが残念です。

これから、顔をのぞかせる花々、さえずる小鳥たち、葉を繁らせている樹木を、ササ刈りなどをしながら楽もうと思っています。花の名前、道具の扱い方、手入れの仕方など、分からないことが沢山ありますが、追々学んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

<写真>なな山の新緑

ヒゴスミレ(スミレ科) *Viola chaerophylloides*

なな山の「中の谷の奥」にヒゴスミレが数株あり、4月になると、乳白色の花を数輪つける。葉は五裂し、鋸歯が大きく切れ込んでいるのが特徴だ。よく似ているエイザンスミレ(叡山堇、なな山にはない)の花は淡紅色である。和名は「肥後堇」であるところからすると、九州熊本県のあたりに分布していたものと思われる。



スミレの多くは、春一番に咲く花は実をつけず、花後に「閉鎖花」と呼ばれる花をつける。つまり二つのタイプの花をつけることになる。閉鎖花は開花しない花の意で、開花せずに多くの種をつける。植物にはスミレのように閉鎖花をつけるものがいくつか存在する。なな山では、フタリシズカ、ホトケノザが閉鎖花をつける。閉鎖花は自家受粉とは異なり、花弁が著しく退化し、花粉もわずかだそうだ。そのエネルギーを雌しべに回し、多くの種をつけ効率的に繁殖しようとしているようだ。



ある研究者が、ある里山の54種類の植物に開花期にあわせて花に袋を被せ、結実状況を調べたところ、袋を被せたほとんどの草本が結実したという結果を得た。木本の結実は一部だった。本来ならば虫も風も頼ることができず、結実にくい状況のこの実験で、草本は状況によっては自家受粉が可能ということになる。そこから推し量ると、植物の繁殖には閉鎖花をもつもののように特殊な進化をしたものがあり、他家受粉といえども、環境によっては自家受粉も可能となるというように非常に柔軟性がある。植物は人間よりもはるかに長い時間をかけて進化してきた歴史のなかで、個体に適した繁殖方法を身につけ、環境に合わせて生き延びるさまざまな方法を獲得しているのだろう。動けないだけに、試行錯誤しながら、現在進行形の進化をしているようだ。なな山では、フタリシズカの花が5月に咲き、閉鎖花を7月につける。観察してみよう。



<写真> 右上=ヒゴスミレ、左上=ヒゴスミレ閉鎖花の結実、右中=ヒゴスミレの種、左中=フタリシズカ、右下=フタリシズカの閉鎖花、左下=ホトケノザには開花しない花がある。

《4ページよりつづく》

2011・3・27(日)晴れ 気温7℃

総会を終わってから活動に入る、朝は寒かったが、徐々に暖かくなり春を感じた。参加者 8人。
「作業」シイタケ・ナメコ菌を打つ、ホダ木の仮伏せ、簡易チルホールでコナラ間伐、しがら作り。
「観察」見つけた植物=オオアラセイトウ、シュンラン、コブシ、アセビ、タチツボスミレ。

2011・4・10(日)晴れ 気温17℃

新年度スタート、粗大ごみ回収としがら作りで山の整理・整頓、義援金を集める。参加者 14人。
「作業」粗大ゴミ拾い(冷蔵庫もあった)、畑に施肥、ネギ収穫、シイタケ菌打ち、しがら作り、サクラ皮むき。
「観察」見つけた植物=ヒゴスミレ、タチツボスミレ、ムラサキケマン、ヤブレガサ。

2011・4・24(日)晴れ 気温20℃

義援金が30,465円集まる、12時に犠牲者の冥福を祈って黙とう。参加者18人。

「作業」植物観察で春を満喫(写真右)、倉庫の整理と棚卸、ジャガイモ間引きと土寄せ、中の山しがら作り。

「観察」見つけた植物=キンラン、ヤマグワ、タマノカンアオイ、ウワミズザクラ、カキドオシ。



2010・12・12(日)晴れ 気温12℃

おやじの会が子供連れで下見に、新入会員2人 高校生など千客万来の日。 参加者17人。
「作業」道路脇の清掃、柵の修理、落葉囲いの修理、ダイコン収穫、西の山のくず掃き、おやじの会メンバーの伐倒体験。

2010・12・23(日)晴れ 気温14℃

法面、道路脇他を全員で清掃、昼はトン汁で活動納め、今年一年お疲れ様でした。 参加者12人。
「作業」道路、西側斜面などのゴミ拾い、サトイモ、ダイコン、ネギの収穫、耕運、シイタケ収穫、トン汁準備。
○トン汁に、畑のダイコン、サトイモ、ネギとシイタケを入れ、全員で卓を囲んでなごやかに納めの会をした。



2011・1・9(日)晴れ 気温4℃

新年活動はじめ、今年一年の安全祈願(写真右)。 参加者20人。
「作業」西の山のくず掃き、落葉囲いの整備、作業の道の補修、コナラの伐倒、ゴミ拾い。「観察」見つけた植物＝フユノハナワラビ、コウゾリナ。

2011・1・23(日)晴れ 気温7℃

この季節としては暖かい活動日和、昼はなな山のダイコンで味噌汁。参加者17人。
「作業」くず掃き、西の山の階段の改修(急な階段が緩やかになる)、コナラ2本を間伐、落葉・落ち枝の片付け、畑に畝の番号杭を設置。
「観察」見つけた植物＝シュンランの芽、シロミノマンリョウ、ビワの花、センリョウ(写真右)。
○なな山のダイコンとネギで美味しい味噌汁ができてお昼のお弁当タイムは楽しかった。



2011・2・13(日)晴れ 気温4℃

水道管が凍って破損したが復活、寒さ対策に活動開始前に全員で準備体操(写真左)。 参加者11人。
「作業」西の山くず掃き、水道の修理、リヤカー置場のドア修理、機械整備、マキ割り、倉庫整理、ヤマザクラの間伐。
「観察」見つけた植物＝ウメ、オオイヌフグリ。

2011・2・27(日)晴れ 気温10℃

樹の芽が膨らみ春の訪れも近いが、花粉の季節も近づく、花粉症に要注意。 参加者13人。
「作業」畑を耕す、肥料を撒き土作り、ヤマザクラの間伐、中の山のササ刈り、道づくり、機械整備。
「観察」見つけた植物＝ヤブコウジ。

2011・3・13(日)晴れ 気温17℃

大震災発生、我々もがんばって活動を続けていこう。 参加者16人。
「作業」ジャガイモ植え付け(写真右)、クヌギの苗ポット作り、ヒノキ、クヌギ間伐、しがら作り、落ち枝の片づけ。
「観察」見つけた植物＝シロミノマンリョウ、ウグイスカグラ、シュンランの芽、ヒイラギナンテン。
《3ページにつづく》



なな山だより 第22号
発行
発行責任者
住所
ホームページ
編集委員

2011年5月8日発行
なな山緑地の会
高木直樹
多摩市和田 1394-13
鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

編集後記

今年度総会で「なな山だより」は、1月、5月、10月の年3回発行となりました。回数は減りますが、内容が薄くならないように編集者一同努力して参ります。これからも「なな山だより」をよろしくお願いたします。K